

「共に生きる社会」の実現をめざして

IUHW



International University of Health and Welfare

vol. 107
December
2016

第6回
国際医療福祉大学
学術大会

海外保健福祉事情

風花祭
かざ はな さい

第21回
大田原キャンパス

国際医療シンポジウム



100km 駅伝開催!

10月29日、大田原キャンパスの理学療法学科は、恒例の「100km 駅伝」を実施した。4年生の国家試験合格率「100%」を祈念して毎年この時期に行っており、アドバイザー教員のもと、1年生から4年生の学年混成チームを10チーム編成し、各チームはランナーを交代しながら、キャンパス内の約1.2kmの周回コースを84周した。



第11回

那須塩原ハーフマラソン開催!

11月3日、「第11回 那須塩原ハーフマラソン」が開催された。昨年に引き続き、5kmの部と1kmランウォークの部のゼッケンには、協賛の国際医療福祉大学病院の名前が入り、275人のランナーがこのゼッケンを胸に那須塩原市内を駆け抜けた。



2 医学部開設が決定

4-7 特集1 国際トピックス

国際医療シンポジウム

「アジア諸国と日本の国際医療協力および医学教育に係る今後の展開」

主催者あいさつ／基調講演／パネルディスカッション

8-9 特集2 第21回 風花祭

大田原キャンパス

10-13 特集3 海外保健福祉事情

中国／台湾／ベトナム／タイ／ミャンマー／韓国／オーストラリア／イギリス

14-16 キャンパスレポート

成田キャンパス／小田原キャンパス／福岡キャンパス／大川キャンパス／大学院／塩谷看護専門学校

17 トピックス

大田原キャンパス 看護学科 「平成28年度 公開学習会」を開催／大田原キャンパス 視機能療法学科 元培醫事科技大学留学生が5年連続、視機能療法学科で学ぶ／成田保健医療学部 理学療法学科 実り多き基礎実習を終えて／大田原キャンパス 病院ボランティアにゆーBが活動

18 第6回 国際医療福祉大学学会学術大会

19 同窓会通信

20 学生投稿ページ



医学部開設が決定

本学が申請していた成田キャンパスへの医学部設置は、八月三十一日、文部科学大臣より認可され、二〇一七年四月の開設が正式に決定しました。新しい医学教育の実現をめざし、一〇年にわたって議論を積み重ねてきた結果です。新設する医学部では、国際的で先駆的な学修環境を整え、グローバル時代にふさわしい医師を育ててまいります。



●建設中の医学部棟完成予想図

① これまでにない水準の医学教育

クリニカルクラシックシップ（診療参加型臨床実習）は、世界医学教育連盟（WFME）が基準とする七二週を超え、九〇週にわたり実施します。医学に関する大多数の科目で英語による授業を行うほか、六年次には最低四週間の海外臨床実習を必修とするなど、国際的なステージでも診療やカンファレンス、議論などが行える医師として活躍できるカリキュラムを準備しました。一学年の定員一四〇人のうち二〇人が留学生。学生の七人に一人は外国人という国際的な学修環境も、日本の医学部では初めてです。日本の医

師国家試験合格を前提とし、医学教育統括センターは専任教員二五五人という前例のない規模の構成とし、国家試験対策の総括講義、二四時間体制の専用自習室も整備します。

② 国際経験豊富な教授陣

国際的に活躍する各分野のエキスパートを教授陣に迎えます。国際医療拠点にふさわしい三〇数人の外国人教員を採用するほか、日本人教員も海外での臨床・教育経験の豊富な教員を多数採用しました。

③ 充実した実践教育・臨床実習環境

医学部棟の四階には、五〇〇〇㎡を超える世界最大級の医学教育シミュレーションセンターを設置して、高度な総合診療能力の養成を図ります。臨床実習は、四つの附属病院に加え、臨床医学研究センターと位置づけるグループ関連病院・施設を活用します。附属施設・グループ施設には、介護老人保健施設や在宅ケアセンターなども含まれており、厚生労働省が二〇二五年をめどに構築を推進している、地域包括ケアシステムにも対応できる臨床実習環境です。二〇二〇年には、成田市内に新



●成田市内に建設予定の附属病院完成予想図

④ 意欲の高い学生に広く開かれた門戸

学生納付金は、私立大学医学部では最も安い、六年間で一八五〇万円に設定し、グローバル時代にふさわしい医師をめざす意欲の高い学生に広く門戸を開きます。さらに、医学部特待奨学生制度や国際医療福祉大学医学部年間成績優秀賞に加え、教育ローンも充実するなど、学費サポート制度を手厚くしています。

また、認可後、東京・成田・大阪・福岡で「国際医療福祉大学医学部入試説明会」を五回開催し、受験生や保護者をはじめ一五〇〇名以上が来場されました。

年間三〇〇〇万人が国際線を利用する日本最大規模の国際空港を擁する国際都市・成田。この地に、二〇一七年四月に新設する医学部、そして、二〇二〇年に開設予定の国際医療福祉大学成田病院（仮称）は、両輪となって、世界最高水準の国際医療拠点の構築をめざしてまいります。



●東京で開催した医学部入試説明会の様子

学生の卒業時到達目標 ディプロマポリシー

- ① 医師としての使命感・倫理観など医療プロフェッショナルリズムを備え、患者中心の医療を実践できる。
- ② 医療の国際化に対応した幅広い知識と高いコミュニケーション能力を持ち、海外の医療現場で活躍できる。
- ③ 広い教養と寛容な精神を兼ね備えたうえで、医学・医療に必要なサイエンスとアートを修得し、科学的思考力を基に質の高い医療を実践できる。
- ④ 医療現場の多職種と協調・連携できる能力および、各職種の役割や責任体制に関する知識を身につけ、将来、医療チームの中核的な役割を担うことができる。

入学者受け入れ方針 アドミッションポリシー

- ① 国際医療福祉大学および医学部の基本理念と教育理念を十分に理解し、専門職業人として「共に生きる社会」の実現に貢献する強い意志を持つ者であること。
- ② 優れた学業実績や英語能力を有し、将来国際性を身につけ、国内外の医療需要に応じ、母国および国際社会における保健・医療・福祉分野の発展に貢献したいという強い意志を持つ者であること。
- ③ 自ら積極的に学ぶ意欲をもち、保健・医療福祉分野における科学技術の高度化・専門化および国際化に対応するための努力を継続できる者であること。
- ④ 幅広い教養と広い視野を備えた豊かな人間性を養うため、積極的に自らを磨いていける者であること。
- ⑤ あらゆる人に対して自らの心を開き、「ミニマム・ケアー」をとれる者であること。

国際医療シンポジウム

『アジア諸国と日本の
国際医療協力および
医学教育に係る今後の展開』

日本初の医療福祉の総合大学として一九九五年に開学した本学は、国際的に活躍できる医療福祉専門職の人材育成およびアジアをはじめとする諸外国に対するさまざまな医療協力や学術交流を行ってきた。開学二〇年を経て、これまでの取り組みを振り返るとともに、今後の我が国の国際医療協力のあり方や、来春成田キャンパスに開設する医学部で行う国際的な医学教育をテーマに、一〇月二四日、ホテルニューオータニ東京で、国際医療シンポジウムを開催した。

高木邦格理事長と大友邦学長の主催者あいさつで始まり、基調講演、パネルディスカッション（コーディネーター・松谷有希雄副学長）、パネルディスカッション2（コーディネーター・大友学長）と続くなか、日本の政府・大学関係者などのほか、協定締結国の関係者が多数登壇し、有意義な議論が交わされた。

（大田原キャンパス広報室 金井雅之）

主催者あいさつ

国際医療福祉大学理事長
高木邦格アジアに必要なのは
医療福祉専門職を含めた
全体の医療協力

本学は昨年開学二〇周年を迎えました。また、本年四月には大友邦新学長を迎え、さらに、八月三十一日、医学部の新設が認可され、来年四月の開設をめざして準備を進めております。このように、本学にとりまして大きな節目となるこの時期に、「国際医療シンポジウム」を開催いたしましたところ、多くの皆様にお集まりいただき、誠にありがとうございました。本日にここに、ベトナム、ミャンマー、カンボジア、ラオス、中国、モンゴルから約五〇名の方をご招待いたしました。また、医療の国際展開についてご造詣の深い、参議院議員の武見敬三先生、和泉洋人内閣総理大臣補佐官、厚生労働省の福田審議官、文部科学省の松尾泰樹審議官、国際協力機構の戸田隆夫上級審議役にお越しいただいております。

この国際医療福祉大学を作ったとき、医師以外の専門職の地位の向上を掲げ、看護、理学療法、作業療法、言語療法、

診療放射線、医療経営、オフィシャル・マネジメント分野の先生方を集めました。が、最初の学科長七人のうち四人がフルブライト留学生だった方でした。一九五〇年代の後半に、アメリカは日本の優秀な人材を集めて、医療界のリーダーの養成に力を入れていたことが印象的でありました。そこで、本学を作るにあたり、アジアの医療福祉のリーダーを養成するという気持ちで強くしました。

府から強く要請されておりますのは、授業の相当部分を英語で行うことと、アジアのリーダーを養成すべく二〇名の留学生を受け入れることであります。二〇名の留学生をすべてフルスカラーシップで受け入れることは大きな経営負担を伴いますが、アジアのリーダーを育てていくことは、本学にとって大きな楽しみであり、ます。すでに、ベトナム、ミャンマー、モンゴル、カンボジア、インドネシアで試験を行ない、各国トップの医科大学一年次のトップクラスの学生や、高校生のトップクラスの人材が集まっており、彼らは将来、必ず母国で活躍してくれるものと期待しております。

また、中国のリハビリテーションスタッフの養成においては、医療協力で熱心な国立リハビリテーション病院に協力する形で、本学がすべてを引き受け、中国で初めてのリハビリテーション教育のために、四一名のフルスカラーシップ留学生と多くの短期研修生を受け入れてまいりました。その結果、中国で最初のリハビリテーション四年制大学は、本学の卒業生が相当数活躍したと聞いております。

さらに、アジア婦人友好会の推薦による各国からの留学生の受け入れは、多くの国にわたっております。なかでもミャンマーからは大学院を中心に一六名ほどのフルスカラーシップ留学生を受け入れており、ミャンマーの薬剤師で初めて博士課程に入った学生も誕生しております。

このたび医学部設置認可のなかで、政

国際医療福祉大学学長
大友邦『国際医療福祉大学型
チーム医療』の完成

本学は医療福祉の総合大学の特長を生かし、関連職種連携教育を実施してきました。来春、

医学部が加わることで、医師を含めた「国際医療福祉大学型チーム医療」の実施が可能になります。医学部設立に際して政府から要請されているアジアの医療分野のリーダーの育成は本学の使命です。本学の強みである「チーム医療・チームケア」の実践をベースに、二〇人の留学生を世界に通用する医療のスペシャリストに育てていきたいと思っております。

基調講演

★ ベトナム保健大臣
グエン・ティ・キム・ティエン氏

二〇年来の医療協力に感謝

ベトナムの人口は九〇〇万人以上にのぼるものの、医師は一人当たりわずか八人です。現在、

★ ミャンマー保健スポーツ省 事務次官
テン・カイン・ウィン氏
加速する人材養成への支援に
期待

二〇一四年に国際医療福祉大学が主催した「ミャンマー国際医療シンポジウム」に参加したことをきっかけに、国際医療福祉大学とヤンゴン第一医科大学、ヤンゴン医療技術大学との交流が進みました。今年六月には、ヤンゴン市の国立リハビリテーション病院内に「IUHWリハビリテーション研修センター」が設置され、八月に最

初の「リハビリテーションセミナー」が開催されました。理学療法、作業療法、言語療法、リハビリテーション医学、スポーツ医学の教授が参加しており、本国のリハビリテーション技術の向上に資するものと期待しております。

国際医療福祉大学の医学部の開設にあたり、ヤンゴン第一医科大学でも説明会を開催していただきました。医学生もこのプログラムに大変な関心を示しており、面接を希望する学生が出ております

自由民主党参議院議員
武見敬三氏アジアのネットワーク作りに
期待

医療問題は国境を越え、アジアの共通の問題になっています。アジアにおける高齡化の波はまず日本で始まり、いくつかの波となつてアジア各国に広がります。そこで、国による医療や介護の需給バランスの時間差を利用し、国境を越えて人材の循環を行なうことを提案しています。アジア諸国の介護人材を日本に招き、その技術を日本で使つていただき、日本での需要がなくなつたときに母国に戻つてそのノウハウを生かすという循環をいかにデザインするかが重要です。

その中で国際医療福祉大学が、教育制

度やネットワーク作りで重要な役割を担っていると思います。医学部の開設を契機に、全ての分野の医療サービスを提供することができる教育制度により、効率的なネットワークがアジア全体に広がることを心から願うものであります。

内閣総理大臣補佐官
和泉洋人氏『アジア健康構想』で
Win-winの関係構築

今は六五歳以上を高齡者としていますが、六五歳を過ぎても健康な方は多数おられます。健康長寿社会を築き、意欲がある人は働き続け、社会に参画し、プライドと生きがいを持つて生活する。結果として、たとえば高齡者を七五歳以上と再定義し直せば、高齡者の比率は下がる。こうした世界をめざすことが持続的成長を可能にするシナリオだと思っております。

また、日本は自身の経験を踏まえて、高齡化が進むアジア全体での人材還流、ビジネス連携、政策協力に取り組むことが必要です。それがユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）と健康長寿社会の実現をめざす「アジア健康構想」につながるのです。アジアと日本でWin-winとなる関係構築に向けて協力してまいりたいと思っております。

October 8th Sat. ~ 9th Sun. 2016



屋内イベントも充実



「アカペラサークル和音」の心地よいハーモニーに、来場者や学生が体でリズムをとりながら聞き入った。



コスプレでアピールするのは、創作イラスト・小説のサークル「湯元のスイッチ」。



今年も癒し空間を提供した大学院助産学分野のアロマハンドマッサージ。

雨が降っても屋台は大繁盛！



第21回

風花祭

今年のテーマは「21Colors ~みんな輝く色~」

今年で21回目を迎える風花祭を「自分たちなりの色を出して成功させたい」という願いが込められた。多くの人が関わるなかで、一人ひとりがその役割を果たすことは、本学が推進している「チーム医療・チームケア」にも通じ、さらには、多様性を受け入れるという視点は、現在、世界中で起こっている不幸な現実に関心を寄せ、柔軟な感性の大切さを考えるきっかけになるものであった。(大田原キャンパス広報室 金井雅之)



実行委員長は薬学科2年の塚本雄太さん。(岐阜県立岐阜北高校出身)
実行委員総勢160人を束ねる大役をつとめた。



あちこちで部活のアピールも



ボランティアグループ「かざはな」による恒例の「満喫ツアー」。今年もキャンパス内の施設利用者に風花祭を楽しんでもらった。



今年は、時折大粒の雨も落ちるあいにくの空模様。屋外の仕事は傘を手放せなかった。

6年目になった被災地支援



今年も、医療福祉・マネジメント学科 介護福祉コースの学生が、宮城県岩沼市からの仕入れたきゅうり、冬瓜、ブロッコリー、レタス、白菜、じゃがいも、ぎんなん、梅ぼしを販売し、同じテントで、その野菜を使ったシチューを販売した。後日、学生が売上金と募金から116,658円を岩沼市に持参して寄付した。

海外
保健福祉事情

本学の三つの基本理念のひとつである「国際性を旨とした大学」とは、「国際的センスを備え、いかなる国の人々とも伸び伸びと協働できる真の国際人を育成すること」。

今年も、夏休み期間中の約二週間、総合教育科目である「海外保健福祉事情」を実施した。約三か月の国内事前研修のあと、今年は一か国に一七グループが赴き、現地のスタッフの指導のもと、医療現場に触れたり、現地の学生と交流したりなど、貴重な経験を積んできた。今号では、このうち一〇グループのレポートを紹介する。

(国際室 藤原志保)

中国
中国リハビリテーション研究センター西洋医学の歴史や
日本の国際協力も学んだ

福岡保健医療学部 作業療法学科
准教授 新川寿子

北京での研修は、中国リハビリテーション研究センターの薬局、理学療法学科・作業療法学科・言語聴覚学科での体験実習を中心に実施した。北京協和病院やJICA事務所への訪問もあり、中国における医療分野の現状だけではなく、西洋医学の歴史や日本が行っている国際協力に



●ハノイ医科大学にて

日本ではわからないことを
知る貴重な体験の連続

福岡保健医療学部 医学検査学科
二年 小峠真唯

事前学習でベトナムの現状や医療制度などを調べていたが、現地を訪れることで日本とは違う光景を目の当たりにした。研修で訪れたいずれの病院も、二人以上の患者さんが一つのベッドを共有していた。日本では決して見ない光景であり、衝撃を受けた。また、患者さんのお世話をするのは看護師ではなく、主に患者さんの家族だった。

海外研修でしか体験できない、日本とは異なった現地の医療を知ることができたことは、将来に役立つ貴重な体験であった。

ついて学ぶことができた。夜や休日には、観劇を楽しんだり、万里の長城や頤和園などの景勝地を訪れたりした。研修に当たり、綿密な計画や準備、現場での臨機応変な対応にご尽力いただいたCRRRCのスタッフの方々に感謝申し上げたい。



●中薬房での「生薬の計量」の実習

中国薬について
充実した学びを体験した

薬学部 薬学科
二年 石黒静花

中国リハビリテーション研究センターでの研修は学生の専攻ごとに実習内容が分かれており、私は限られた期間の中で存分に中国薬について学ぶことができた。また、中国の医療面を学ぶだけではなく、中国の文化や世界遺産に触れたり、JICAの活動を知ったりなど研修内容が充実していた。渡航前には不安もあったが、現地の方々に親切に接していただき、問題なく研修を終えた。海外研修を通して多くのことを学び体験することができた。この経験を生かし、今後も勉学に励んでいきたい。

タイ
クリスチャン大学タイの温かみを感じる
充実のプログラム

福岡保健医療学部 理学療法学科
准教授 金子秀雄

八月四日から一二日間の研修に二九名(福岡キャンパス一名、大川キャンパス一八名)の学生が参加した。クリスチャン大学を拠点に展開した一〇日間の研修は、大学紹介から始まり、タイダンス体験や自然の体感、四つの医療福祉施設・エイズ寺院・世界遺産の見学、水上マーケットでの買い物、そしてタイマッサージ体験と充実した内容であ



●ワット(寺院)カノンの前にて

台湾
元培醫事技科大学教員にも参考になった
研修プログラム

保健医療学部 視機能療法学科
技術助手 鎌田泰彰

元培醫事技科大学での講義は、座学だけではなく、実際の体験や日本文化との比較などさまざまな工夫がされていて、中国語に馴染みのない学生にも理解しやすく、教員にとっても参考になる内容であった。病院見学は、学科を考慮したグループ分けや見学内容が用意され、学生の発言も多く有意義な見学となった。

ボランティア



●台湾の民族文化「龍踊り」に挑戦

「サポーターすることが喜び」
という言葉から学んだこと

福岡保健医療学部 医学検査学科
二年 山浦栄子

った。初めてのタイを経験し、後半は疲れを隠せない状況であったが、温かみのある人柄に支えられ、最終日のタイマッサージでみんな元氣を取り戻して無事帰国した。

国による相違と、どの国にも
共通していることを実感

福岡看護学部 看護学科
三年 山本詩乃

今回の研修を通してタイと日本の文化、看護の相違を学ぶことができた。ヘルスプロモーションの理念は、タイでも同じであった。見学した大きな病院は、外国人への対応がしっかりなされていた。どんな小さな村にも寺院があり、人は亡くなると生まれ変わるということができるといふ思想から、死に対する恐怖がないという文化の違いには興味を持った。

一方、どの国でも患者さんを第一に考えて、看護や治療を行っていることを改めて感じることができた有意義な研修になった。

ミャンマー
ヤンゴン看護大学・ヤンゴン科学技術大学国際性豊かな
医療人の育成に向けて

成田保健医療学部 理学療法学科
学科長 西田裕介

初めて海外保健福祉事情の引率を行った。研修国はミャンマーで、学生一

大学や訪問先の先生方は、日本語に翻訳しながら講義や説明をしてくれた。ボランティアの方は、私の拙い英語を理解し、日本語や中国語を翻訳しながら、私たちをいつも気遣ってくれた。例えば、自由行動で校外を散策するときは、安全に気を配りながら、知らないことは調べて、私たちが楽しめるように、常に考えてくれた。感謝の気持ちを伝えようと、サポーターすることが喜びだと言うこの姿勢は、医療職をめざす私たちにとても重要なことだ。また、日本と異なる生活や習慣を経験することで、視野が広がった。

★
ベトナム国立バックマイ病院・ハノイ医科大学
ベトナムの医療事情の現状を
学んだ二日間

福岡保健医療学部 理学療法学科
講師 江口雅彦

研修はハノイの国立バックマイ病院とハノイ医科大学で行われ、福岡看護学部と福岡保健医療学部の五学科から二四名が参加した。

いずれもハノイの基幹病院であり、各部門の医療の現状と課題について学んだ。日本と大きく異なる医療の現状を目の当たりにし、戸惑うこともあったが、研修を進めるうちに、限られた医療資源のなかで最大限の医療を提供していることが理解できた。また、ベトナムの文化にも触れることができた有意義な二日間であった。

五名と引率教員二名で渡航した。

ヤンゴン看護大学、ヤンゴン科学技術大学と連携し、医療福祉の施設見学をはじめ、大学間の学生交流など、大変充実した内容の濃いプログラムが展開された。



●ヤンゴン科学技術大学の皆さんとの記念撮影

日本を離れてこそ
見えてきたさまざまなこと

小田原保健医療学部 作業療法学科
二年 齋藤朋香

ミャンマーを訪れる前は、この国のイメージは「日本の四〇年前の医療技術」という大雑把なものだった。しかし、実際に訪れてみると、医療だけでなく政治や国民性、国にとっての宗教の大切さなどさまざまなことに気づかされた。病院や施設の運営や設備・器具はほとんど寄付で成り立っているそうで、ある高齢者施設では、設立にあたって寄付した数千人の名前が壁一面に彫られている光景が印象的だった。

今回私は都市部しか見ていないが、また別の社会が存在する地方の医療事情にも強い関心を持った。

韓国 大邱韓医（テグハニ）大学

**充実したプログラムに感謝し
さらなる関係の構築を願う**
福岡保健医療学部 医学検査学科
教授 佐藤信也

今回で三回目となるが、本学の要望に沿った内容も取り入れていただき感謝している。講義や実習、病院見学、市内視察と非常に充実したプログラムであった。日韓の医療事情の違いを肌で感じることができ、今後の学修に向けて貴重な経験を得ることができた。グローバルな人材育成には、海外へ足を運ぶことは極めて重要で、引率教官としても多くの刺激を受けた。今後も学生間および職員間の交流を継続させ、さらに発展性のある関係が構築されることを期待したい。



●病理組織検査実習（染色）

**視野が広がり
今後の課題が明確になった**
福岡保健医療学部 医学検査学科
二年 塚本のほら

医学検査学科に特化したプログラムで、病理組織標本の作成実習や臨床生理学の特別講義など、充実した内容であった。さらに病院見学では、韓国の伝統医療「韓方」や美容外科など、韓国特有の医療に触れ、視野を広げることができた。

一方で、知識不足やコミュニケーション能力の未熟さを痛感し、医療従事者をめざすうえでの課題が明確になった。貴重な機会をご提供くださった方々に感謝するとともに、今回の経験を学業に生かし、未来に繋げていきたい。

オーストラリア TAFEゴールドコースト

**盛りだくさんの研修内容を
さらによいものに**

成田保健医療学部 理学療法学科
講師 志村圭太

福岡、大川、小田原キャンパスの学生二八名が参加した。語学研修では英語に苦しみながらも、徐々に他国の学生との会話がずいぶん増え、医療福祉施設の見学では、入所者と折り紙や書道といった日本文化を通じて交流をはかった。最終日には、澄みきったゴールドコーストの青空のもと、ホストファミリーと涙の別れを経験した。

ターニングポイントになる 体験ができた

薬学部 薬学科
二年 若林諒

研修プログラムは、午前は医療用語、オーストラリア特有の表現などを含めた英語講義、午後はオーストラリアの医療についての講義、大学病院や高齢者ケア施設などの見学で、動物園見学や現地学生とのスポーツ大会もあった。さらに、ホームステイを通してコミュニケーションの大切さを感じ、他キャンパスや現地の学生とともに時間を過ごしながら、出会いの素晴らしさを知った。この研修はさまざまな面で自分のターニングポイントとなった。ぜひ来年多くの人に体験してほしい。

オーストラリア TAFEケアンズ



●「JAPAN DAY」で、毛筆で自分の名前を書く利用者

八月四日から一七日の日程で、ケアンズで海外研修を行った。ホストファミリーはとても温かく、英語での会話はルームメイトと協力し合い、ファミリーも私たちがわかるように話してくれた。伝えたい気持ちとうまく言葉にできないもどかしさを感じるたびに、言葉の大切さを改めて感じた。文化の違いに驚くことはあったが、毎日ファミリーの優しさを感じながら過ごし、言葉以上に大切なものを教えてもらった。一生忘れない貴重な経験になった。

**言葉の大切さと言葉以上に
大切なものを知った**

小田原保健医療学部 作業療法学科
二年 諸星明日香

愛すべき国民性に触れた
初めての海外体験
小田原保健医療学部 作業療法学科
准教授 篠崎雅江
福岡保健医療学部 医学検査学科
教授 宇治義則

八月四日～一七日、世界遺産の町・ケアンズのTAFEの研修に、学生二七名と教員二名が参加した。内容は、語学研修に加え、①オーストラリアの医療制度②認知症概論 ③ハイケアユニット見学④リフターによる患者搬送ガウンテクニック実習 ⑤学生による日本文化の紹介である。学生のほとんどが初めての海外であり新鮮な体験になった。TAFEの担当者、ホストファミリーの皆さんなどから親身のご対応をいただき、オーストラリアの愛すべき国民性に感激した。

教員としては、引率を通じて海外研修における学生の安全管理や、今後の内容をより充実させるために何が必要かを再考するよいきっかけとなった。



●お世話になったホストファミリーとの記念撮影

**医療福祉、語学、生活など
学びの多い滞在だった**

福岡看護学部 看護学科
三年 西田夏菜

オーストラリアの研修はホームステイでの滞在のため、現地の文化や生活にじかに触れることができ、ホストファミリーには大変感謝している。州立の職業専門学校兼英語学校であるTAFEゴールドコーストでは、さまざまな国の人と一緒に英語を学習し、大いに刺激を受けた。また、講義や施設見学ではオーストラリアの保健医療制度や看護体制において、日本との違いを多く感じ、私たちに与えてくれた大変貴重な体験になった。

イギリス イーストアングリア大学

**理解しやすい講義と
講義に関連した施設見学**
福岡保健医療学部 理学療法学科
講師 徳江武

八月四日～一七日、大川キャンパス五名、福岡キャンパス三名の学生がイギリス研修に参加した。看護師などの医療専門職を養成するイーストアングリア大学保健医療学部が支援してくださった。イギリスの医療制度、医療専門職の養成に関する講義に加え、作業療法士、助産師、手術室技師など専門職による講義もあった。講師は、映像や模型を使って理解を促



●本学初のイギリス研修を実施したイーストアングリア大学

**アクティブラーニングによる
学生の成長に感動**

薬学部 薬学科
准教授 藤井幹雄

大田原、福岡、大川キャンパスの学生二六名と教員二名で参加した。英語の授業は常にアクティブラーニングで、日常会話の練習に始まり、次に医療英語とオーストラリアの文化紹介へと進んでいった。最終日の送別会で、学生がホストファミリーや講師の先生たちと仲良く会話している姿は、学生の成長を強く感じた。高齢者介護施設、病院、看護学科実習施設の見学は、いずれも目を見張るものばかりで、他国の医療、文化を学ぶよい機会であった。



●高齢者介護施設で「JAPAN DAY」を開催して利用者と交流した

進し、質問に答える形で知識を提供された。講義に関連する施設見学もあり、理解を深めることができた。

**事前学習と現場との違いを
知ることができたことが収穫**

福岡看護学部 看護学科
三年 辻 桜子

二週間という短い期間だったが、事前学習をしたうえで、実際にイギリスの医療制度などを学んでいくことで、自分たちが調べていたことと実際の現場での違いを知った。また、本学がイギリスで海外研修を行うのは初めてだったが、イーストアングリア大学の方々がさまざまなプログラムを計画してくださったおかげで、充実した日々を送ることができた。病院見学では私たちが日本の病院では見たことのない救急の現場にも入らせてくださり、貴重な体験をさせていただいた。

今年初めて実施したイギリス研修を含めて、一〇グループから、それぞれ引率教員と学生のレポートを紹介した。多くのレポートが、現地のスタッフの丁寧な指導に感謝するとともに、日本で生活しているだけでは気づくことのできなかつた、新たな視点を得た驚きや喜びに触れている。また、現地の学生と過ごした時間は、国際交流に目を向ける絶好の体験になったようだ。

今号で紹介できなかったグループのレポートは次号で紹介する予定である。

第5回 成田

キャンパスレポート

第一回「成翔祭」開催

一〇月八・九日、成田キャンパスの初めての大学祭を開催した。

大学祭の名称「成翔」という言葉には、「空の玄関である成田から、さまざまな分野で翔（かけ）るように」という想いが込められている。そして、初回は「僕らが創る一ページ」をテーマに掲げ、最初の一步を踏み出した。

初日は、屋外ステージでのオープニングセレモニーで華々しく開幕し、その後もダンスパフォーマンスやバンド演奏が彩った。屋外の模擬店もグリルチキン、カレー、じゃがバター、留学生有志が出店したチヂミ・水餃子など多岐にわたった。これらの模擬店の一部は、「経営の仕組み」の授業に組み込



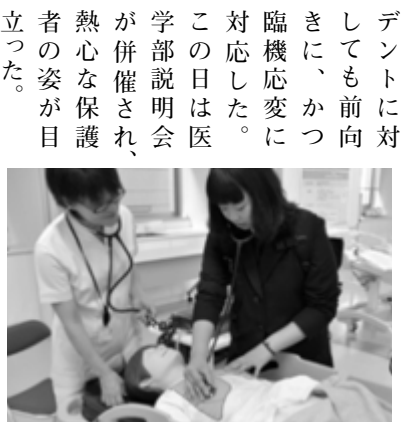
●華やかなステージパフォーマンス

まれていて、学生は店舗経営を学ぶために真剣に取り組んだ（利益の一部は成田市内の医療福祉関係に寄付される予定）。この日は、オープンキャンパスやNHK大学セミナーも併催され、総合ガイダンスや個別相談、講演会など各イベントにも多くの来場者が参加した。

二日目は、夜半からの荒天により、屋外イベント



●雨にも負けず、活気のあった模擬店



●オープンキャンパスで看護体験をする来場者

来場者には、普段と違った大学や学生の姿を見せることができた。学生たちにとっては、試行錯誤を重ねた、かけがえない第一回成翔祭となった。

（広報係 原誠二）

第40回 小田原

キャンパスレポート

第二回「潮風祭」開催

人との繋がり、仲間と地域の人々との

一〇月八日・九日、小田原キャンパスにて第一回潮風祭を開催した。

一日目は、教育後援会「会員のつどい」の特別講演として、本学の学生相談員であり、臨床心理士の梶原佳子先生が「私の気持ち・家族の気持ち・視点を変える」と題して講演し、感じることの、感じるもの」をテーマに講演した。後半は参加者を三・六人のグループに分け、仮想家族に見立てた「ロールプレイ」が行われ、各グループから役になりきったにぎやかな声が時間ぎりぎりまで飛び交った。



●特別講演でのロールプレイの様子



●年間成績優秀賞の表彰式

員だけで行われていたが、今回、看護学科四年の神田具子さんがあいさつで「この機会がさらなる勉強の励みになります」と述べたように、一年間頑張ってきた学生が、その成果を保護者の方々に対して披露できる絶好の場になった。

一般公開終了後の後夜祭では、軽音部の演奏に始まり、恒例になった学科ムービー、ダンス部の発表、各企画の表彰と、限られた時間の中で潮風祭の最後を堪能したいという学生の想いが凝縮し、大変な盛り上がりを見せた。

昨年の潮風祭終了直後からミートイングを開始して作り上げてきたが、今年度から一年生は城内校舎での授業が中心になったため、本校舎にいる先輩からの引継ぎや連絡、移動などが難しく、進行に遅れが目立った。しかし、実行委員長の中村拓矢さんをはじめ二年生代表者の頑張りもあり、各学科学年・学友会・部活動の屋台出店やステージ企画はどれも、今年のテーマの「人との繋がり」を大切にしている思いのあふれたものとなった。



●後夜祭終了後、全員が集まって成功を祝った。

（学務課 下田智香子）

第30回 福岡

キャンパスレポート

第八回「蓮翔祭」開催

一〇月八日、福岡キャンパスにて蓮翔祭を開催した。今回のテーマである「絆」には、大学祭を通して同じ空間を共有し、他の学生や地域の方々と関わり、助け合いながら絆を深めていくという意味が込められている。あいにくの雨で来場者は例年より少なかったが、ステージ企画では「ミスコン・ミスターコン」、「うたうま」、「バンドライブ」などが行われ、会場では例年以上の盛り上がりを見せていた。また、雨で開店が危ぶまれた屋台では、売り切れるところが出るなど盛況であった。同日開催のオープンキャンパスは高校生や保護者の方々も多数来場いただき、普段とはひと味違う大学を体感していただけではないだろう。



●ステージ企画の様子

準備段階から当日までを振り返ると、楽しいことばかりではなく、つらく大変なこともあった。ステージの出演者がスムーズに決まらず苦労したことや、当日の集客が伸び悩んだことなど、さまざま

まな課題に直面したが、その都度全員が協力して乗り越えることができた。大学祭実行委員長として、右も左もわからない状態でのスタートだったが、先輩や先生方、協賛いただいた企業の方々に支えられ、無事大学祭を終えることができた。本堂にありがとうございました。

（看護学科二年 中村喜久恵）

平成二八年 保護者懇談会

九月一〇日、福岡看護学部二号館にて、全学年から六九組七八名の参加のもと福岡看護学部保護者懇談会を開催した。この保護者懇談会は、保護者の方々にとって学生の学校生活や学修・健康面について教員に直接相談できる、大切な場となっている。

まず、全体会では担当の教員から、教務・実習・国際交流・学生生活・国家試験・就職などの現況を報告した。その後、希望者を対象に個別面談を行ったが、それぞれのブースでは教員の説明に耳を傾け、熱心に質問する保護者の様子などが見受けられた。保護者からは「内定もいただき、ここまで成長させていただいたことに感謝しています」という言葉をいただいたほか、「先生方の教育への取り組みがわかった」、「子どもを安心して学ばせることができる環境だと思った」、「面談で先生と直接話をすることができてよかった。国家試験にむけて応援したい」などの貴重なご意見をいただいた。

来年度は、保護者との連携をさらに深められるような保護者懇談会となるよう工夫していきたい。

（学生係 李晶萍）

第44回 大川

キャンパスレポート

第二回「月華祭」開催

一〇月八・九日、大川キャンパスにて月華祭を開催した。

今年のテーマは「百花繚乱」。たくさんの花が自分色の花を咲かせ、学生一人ひとりが色とりどりの美しさを見せてくれるように、エネルギー溢れる個性溢れる月華祭を作り上げたいという思いが込められた。

一日目は、予報通りの悪天候。午後からのステージ企画は場所を講堂に移して実施したが、ダンスサークルのステージや吹奏楽サークルの演奏などで盛り上がりを見せた。また、屋台を出店している学生が、雨の中最後まで奮闘している姿は印象深かった。

二日目の特別講演会は、精神科医の香山リカ先生が「弱い自分を好きになる、生きる力を作る法則」と題して講演し、約三〇〇名が熱心に耳を傾けた。また、同日開催の大川市最大のイベント「大川木工まつり」のパレードには、糸山泰人副



●大学祭実行委員会のメンバー

学長をはじめ、大学祭実行委員らが参加して賑やかな行進を披露した。

天候が持ち直したこの日の屋外ステージでは、「軽音楽部ライブ」を皮切りに、「デート服コンテスト」、「腕相撲大会」、「ミス・ミスターコンテスト」、「国福グランプリ」が行われ、来場者には祭りの雰囲気を感じてもらうことができた。

エンディングを飾ったのは、開学以来続く大川キャンパス伝統の灯明である。一つひとつ火が灯されていき、全ての灯明が輝いている壮大な光景もさることながら、徐々に浮き出てくる絵を待つのも見どころのひとつ。今回は、くまモンと「TOGETHER AS ONE」の文字が描かれた。熊本地震の復興への祈りを込めて灯されたメッセージである。月華祭を通じて、熊本へ向けて学生全員の思いが詰まった自分色の大輪の花を咲かせることができたのではないかな。

消えゆく灯明を、満足そうに見つめる学生たちの目がそう語っていた。

両日ともオープンキャンパスを開催し、入試対策講座や各学科の体験コーナーに多数の高校生や保護者が訪れ、入試本番に向けて着々と準備を進める姿勢がうかがえた。



●灯明では熊本復興に向けてのメッセージが浮かび上がった

（入試学生募集課 白水明生）

第14回 大学院 キャンパスレポート

大学院オープンキャンパスを 開催

九月一日、東京青山、大田原、小田原、福岡の各キャンパスを同時双方向遠隔授業システムで結び、大学院オープンキャンパスを開催した。参加者は一七三名を数え、昨年に続き多くの方にご参加いただいた。

対象とする分野・専攻・研究科を分け、午前と午後の二部構成とした。各部とも、天野隆弘大学院長の挨拶に始まり、大学院の特徴と学生生活、入試の説明を実施した後、分野・専攻ごとの進学相談会を実施した。進学相談会は本オープンキャンパスの目玉企画で、実際に指導にあたっている教員による個別相談、模擬授業、グループでの集団説明会などを通じて、分野の特徴やカリキュラムをわかりやすく説明



●進学相談会の様子

した。在校生・修了生も同席し、学生生活や研究の進め方について、参加者の気になるポイントに温かいアドバイスを送っていた。次年度開設予定の新分野「医療通訳・国際医療マネジメント分野」も対象としており、駆けつけた参加者は実施予定のカリキュラムに熱心に耳を傾けていた。



●学生相談・入試相談窓口の様子

また、東京青山キャンパスでは、本学グループで働きながら大学院で学びたい人のために就職相談コーナーを設置し、希望者は人事の担当者とその場で面談できるなど、キャリア面での支援も充実させた。学生相談・入試相談の窓口とあわせ、参加者は大学院進学に向けて不安や疑問を解消し、有意義な時間を過ごすことができた。

出願受付が始まり、いくつかの分野においては入学試験が実施されるなど、いよいよ受験シーズンが本格化する。各分野・専攻では説明会や授業見学会といったイベントを実施しているのので、大学院進学を検討されている方は、大学院ホームページの情報をチェックしてほしい。

(大学院運営室 近納一重)

第22回 塩谷看護 専門学校 キャンパスレポート

オープンキャンパスを 開催

今年のオープンキャンパスは、六月四日、七月一六日、八月五日、八月二〇日、九月一〇日の五回開催し、そのうちの三回は、終了後、希望者のみ国際医療福祉大学病院、国際医療福祉大学塩谷病院と女子寮の見学を行った。八月二〇日はこれまでで最も多くの方が来場した。



●包帯法の巻き方

「学校及びグループ紹介」から始まり、「入試・学費・奨学金制度の説明」を行った。その後、高校生は「在校生との懇談会」と教員や学生で毎回内容を変えた「技術体験」に参加し、一方、保護者の方は「教職員との懇談会」と「施設内見学」に参加した。それ



●高齢者疑似体験

ぞれの懇談会の前に、学校生活（行事も含む）がわかる二年生自主製作DVDを放映したところ、感動して涙を流される保護者の方がいた。また、学生は参加者に対し、会話しやすいように積極的にコミュニケーションを図り、教職員も保護者の方に再度、学費・奨学金・過去の入試結果などを説明し、質問しやすい雰囲気を作った。それでもわからないことや不安がある方には「個別相談」を行った。来場者からは、「技術体験のとき、先生と学生の仲の良さ、信頼関係が伝わってきて、私も貴校に入学し先生方に指導していただきたい」と強く思った。先輩方も優しく、質問に熱心に答えてくださり不安がなくなった。「先生方も真摯に丁寧にお答えいただきありがとうございます」といった。学生の作成したDVDも学生の思いが伝わり、学生さんたちの心の豊かさを感じられ感動した。娘に安心して入学させられる。入学してほしいと思った。「個人的な不安にも親切に答えていただきとても心強かった」など、うれしい感想が多く寄せられた。



●在校生との懇談会

(事務 石崎友子)

大田原キャンパス 看護学科

「平成二八年度 公開学習会」を開催

一〇月二日、大学による地域貢献の一環として、本学科主催の公開学習会を開催した。五二名の参加者を集め、「命の終わりのときまで輝いて生きるために」をテーマに、話題提供と意見交換を行った。まず、二四時間対応型訪問看護を提供するケアタウン小平訪問看護ステーションの蛭田みどり所長が、「こんなはずじゃなかった」と思わない人生にするために」と題して講演した。三名の事例をもとに、終末期を迎える前から家族や保健医療福祉従事者にどのように希望を伝え、コミュニケーションをとっておくといいか、生き方ややっていくとよい準備・終活などを紹介した。



●糸井教授(左)と蛭田所長(右)

次に、本学の糸井裕子教授が、「がんをもちながら社会復帰したい方のために」をテーマに講演し、調査結果による働く世代のがん患者の声や、職場復帰支援のための専門職チーム「国際医療福祉大学IPA-GRP」の活動内容を紹介した。

その後、現在在宅で介護している方や、病院や地域でケアに携わっている専門職の方からの質問に、参加者も加わって意見交換を行った。アンケートでは、約九割が「満足」「また参加したい」と回答し、本企画の目的は達成できたと思う。

(看護学科 講師 近藤邦)

大田原キャンパス 視機能療法学科

元培醫事科技大留学生在が 五年連続、視機能療法学科で学ぶ

九月、台湾の元培醫事科技大学の視光系から短期留学生三名が来日した。本学科の二・三年生とともに後期の講義、実習に参加している。今年の留学生は語学力、コミュニケーション能力が高い。学生も慣れない中国語や英語、ボディランゲージを駆使してコミュニケーションをとり、互いに打ち解けることで、相乗的に学び、向上していく姿に頼もしさを感じている。また、国際室の協力で歓迎会を開催し、留学生、学生、教職員約百名が交流を深めた。そのなかで、留学生と学生が、数日前から練習したダンスを披露し、学生生活の充実ぶりを感じさせた。視機能療法を学ぶとともに日本語クラスで語学力の向上をめざしており、学科を挙げてサポートしている。本学科の学生はこの経験を基に大学の名にふさわしく、海外に広く眼を向けた視能訓練士に育つことを期待する。



●前列左2人目から、黄さん、新井田孝裕学科長、李さん、程さん

成田キャンパス 理学療法学科

実り多き基礎実習を終えて

九月一日〜二日、成田保健医療学部理学療法学科の一年生九二名は、多くのご支援のもと、栃木地区の大学関連の七施設で基礎実習を行った。

実習は施設・設備見学に留まらず、一名の理学療法士に二名程度の学生が同行して、「理学療法の診療場面」を間近で見学する形をとった。学生は多くの刺激を受け、目を輝かせながら実習に臨んでいた。実習以外でも、朝のラジオ体操から夜の勉強会まで、全てに真剣に取り組んでいた。また、初日には丸山仁司副学長の講義があり、本学の歴史や理学療法士をめざす者としての態度について学んだ。



●本学の研修施設の那須セミナーハウスでの様子

後日行った報告会には、実習施設から三名の理学療法士を成田キャンパスへ招いて講評をいただいた。今後も継続して各キャンパスの特長を十分に生かす学生教育を展開していきたい。那須セミナーハウスで三泊をともにした学生同士、そして学生と教員との絆もさらに強まったと感じている。

(理学療法学科長 西田裕介)

大田原キャンパス

病院ボランティアにゆーBが活動

一〇月二九日、国際医療福祉大学病院で、学生サークル「病院ボランティアにゆーB」が活動を行った。

これは、学生が外来患者さんなどに受付や精算の手順を説明したり、フロアを案内したりすることにより、患者さんのアメニティを向上させるとともに、学生自身も病院のシステムを理解し、卒業後、スムーズに現場で対応できるようにすることをめざした活動である。今回は、医療福祉・マネジメント学科の学生四人が一階ロビーを中心に二時間活動した。

本サークルは二〇一〇年に設立され、継続的に活動を行っている。医療現場と教育が一体になっている本学の特長が最大限に生かされた活動であり、より患者さんに喜ばれ、病院に頼りにされるものをめざして、今後さらに活動を広めていきたいと思っている。



●自動再来受付機の使い方を説明する学生

(IUHWボランティアセンター 福田規予子)

本学はキャリアアップをめざす医療福祉職の方々を支援するため、大学院進学をはじめとするさまざまな学習の場を提供しています。

IUHW Graduate School Information

国際医療福祉大学大学院

医療福祉専門職として活躍中の卒業生のみなさん、
大学院でさらなるレベルアップをめざしませんか！
本学卒業生は入学金が免除となります。
本学グループ職員対象の奨学金制度もあります。

「働きながら大学院で学びたい」 社会人が学びやすい3つの特長

- ①キャンパス** 大田原、成田、東京青山、小田原、熱海、福岡、大川に7つのキャンパスを開設しています。
- ②カリキュラム** 多くの授業を平日の夕方以降と土曜日の昼間にしています。
- ③同時双方向遠隔授業** 複数のキャンパスでリアルタイムに受講できます。質問やディスカッションといった同時双方向のコミュニケーションが可能です。

TOPICS 各分野で進学説明会を実施中

助産学分野、福祉支援工学分野、診療情報アナリスト養成分野、医療経営管理分野など、複数の分野で進学説明会を予定しています。進学をご検討されている方、興味を持たれている方はぜひご参加ください。

詳細・お申し込みは大学院ホームページをご覧ください。

<http://www.iuhw.ac.jp/daigakuin/index.html>

大学院入試に関するお問い合わせは入試事務室まで (TEL : 0287-24-3200)

学べる!役立つ!究める!動画サイト。医療・福祉・介護のエキスパートのあなたへ
医療福祉eチャンネル <http://www.ch774.com> 好評配信中

主な配信番組

●理学療法分野
リハ評価指標 温故知新
～臨床力レベルアップ～

●介護・福祉分野
自立支援型ケアマネジメント・
自立支援介護

●医療・福祉・経営実務
社会保障の政策形成の最前線2
保健医療福祉政策論2

●リハビリテーション
共通分野

リハビリ職の
ための
医療福祉管理



●厚生労働省情報
全国介護保険・高齢者保健
福祉担当課長会議 (9月30日開催)
※無料配信

●乃木坂スクール
支援機器活用の最前線 (生活支援機器概論)

●情報BOX
納得!カラダ事典(健康に役立つ情報を専門医がわかりやすくお教えします)



お問い合わせは フリーダイヤル 0120-870-774 医療福祉eチャンネル お客さま係 (月曜～金曜 9:00～17:00)
Eメール info@iryoufukushi.com 〒107-0062 東京都港区南青山1-3-3 青山一丁目タワー4階

IUHWグループ職員・学生向け動画配信サイト 「国際医療福祉大学VODライブラリー」 <http://www.ch774.com/student.php>

主な 配信番組

●大学授業・副教材
死生学～死を通して生を考える～、教育学、雑談と傾聴～話す力と訊く力～、日本近現代史、宗教学、国際医療福祉論、世界遺産と国際文化政策、ボランティア論、医学・医療史、生命倫理、メディカルマナー入門、医療福祉教養講義、健康科学理論、リスクマネジメント論 等

広報誌 IUHW 107 号

発行：学校法人 国際医療福祉大学

〔大田原キャンパス〕 広報委員会
栃木県大田原市北金丸2600-1 ☎0287-24-3000
〔成田キャンパス〕
千葉県成田市公津の杜4-3 ☎0476-20-7701
〔小田原キャンパス〕
神奈川県小田原市城山1-2-25 (本校舎) ☎0465-21-6500

〔福岡キャンパス〕
福岡県福岡市早良区百道浜1-7-4 (1号館) ☎092-407-0805
〔大川キャンパス〕
福岡県大川市榎津137-1 ☎0944-89-2000
編集：大田原キャンパス入試広報室 ☎0287-24-3210
デザイン：野佐デザイン



医療福祉の多彩なエキスパートを育てる。

国際医療福祉大学

<http://www.iuhw.ac.jp/>

同窓会通信

Vol.12

同窓会「マロニエ会」海外留学奨学制度を利用し、イギリスのセントリール大学に留学していた有家尚志さんが帰国されました。一年間の留学体験をお寄せいただきましたので、ご紹介いたします。

海外留学レポート

有家尚志
福岡保健医療学部 理学療法学科
二〇一一年度卒

「マロニエ会」の海外留学奨学制度を受けて無事に修士課程を修了することができましたので、留学全般、授業内容、今後について報告いたします。

まず、留学を通して異文化を体験し、世界中の人とコミュニケーションを取ったことは、大きな財産になりました。イギリスは移民も多く、コベントリー大学には留学生が一万人以上いました。ちょうどEU離脱が決まった歴史적인日に、その国で、そのことについて多くの人と話せたことは貴重な経験でした。



●クラスメイトと一緒に

働くことはこのような人たちとの競争であることを思い知らされました。ただし、少なくとも英語が話せれば、母国語が英語ではない人ともコミュニケーションが取れることも身をもって知りました。インドの大学院生とテレビ電話で症例検討を行ったことが有意義だったのだ、日本でも広めたいと思いました。



●プレゼンテーションの様子

失敗もありました。授業で脳卒中を発症された方に問診した際に、日本でするような質問を直訳して聞いていると、「かなり不快だ」と言われ、その後は何も答えてもらえませんでした。この経験があつて、相手を気遣う、失礼のない英語での言い回しを覚えることができました。理学療法士の専門的な授業には、毎回胸を躍らせながら参加しました。呼吸循環系の科目では、精巧な人形を用いて実際の患者さんを想定しながら呼吸管理の手法を行いました。イギリスでは、集中治療領域やスポーツの現場では、理学療法士が気管切開をすることもあるそうです。筋骨格系の科目では、多くの徒手療法を学びました。実技試験は、試験官に多くの質問をされながら限られた時間で、一連の評価・治療を行う、非常に緊張感のあるものでしたが、実践的で効果的な学習方法だと感じました。神経系の科目で紹介された機器が気になり、ロンドンで開かれた展示会に行つて実物を使用し、販売業者に日本への展開などを質問したりもしました。研究に関する授業

平成二八年度海外留学奨学生が 決定いたしました。

徳永亮太さん
保健医療学部
理学療法学科
二〇〇九年度卒



●留学先…カナダ ケベック大学
トロワ・ヴィエール校 疼痛神経生理学研究室
●職位…ポスドクター
●留学期間…二〇一六年一〇月～
二〇一八年九月

本制度で初めての研究留学奨学生です。研究テーマである「体性感覚刺激・触刺激・痛み刺激」が不安に関わる脳内神経伝達物質(セロトニン)へ与える影響」の研究を進展させ、疼痛やそれに伴う不安を軽減する方法やメカニズムを解明するために、ケベック大学での二年間の研究留学を決定されました。国際医療福祉大学同窓会と

して、徳永さんの海外生活と研究活動を支援していきます。

同窓会幹事からのメッセージ

森田詠美

福岡保健医療学部 言語聴覚学科1期生
小柳記念病院 リハビリテーション科勤務

言語聴覚士として臨床の場に出てあつたという間に四年目になり、日々充実した毎日を送っています。さまざまな患者様のリハビリを体験してきましたが、誰一人として全く同じ症状、背景、環境の方はいません。状態や取り巻く環境は絶えず変化しており、改めてこの仕事の難しさ、責任の重さを感じています。

昨年から今年にかけて、結婚、さらに現在の病院への転職と大きな変化がありました。現在は同期やリハビリスタッフ、家族に支えられて仕事を続けています。



●ミーティングの様子(中央が森田さん)



私の故郷自慢!

全国から学生が集まる大田原キャンパス。
ふだんの友だちとの話の中では、なかなか紹介しきれない
故郷自慢があるはず。そこで、
昨年に続き、「私の故郷自慢! PART2」として、
今回は秋田県と新潟県出身の学生に取材しました。



秋田県はおいしい食べ物と美女のふるさと!



保健医療学部
作業療法学科2年
齊藤瑛奈さん
(秋田県立
能代松陽高校出身)

稲庭うどん

秋田と聞くと「きりたんぼ」を思い浮かべる人が多いと思いますが、私のおすすめは「稲庭うどん」です。ネットにはいろいろなレシピが載っていますが、私はシンプルに食べるのが一番のお気に入りです。



輝く稲穂

秋田のお米といえば「あきたこまち」。秋になると車窓いっぱい黄金色の稲穂が広がって、この景色を見ると、「帰ってきたんだ」と実感します。



小野小町の生誕地

現在の秋田県湯沢市小野には、絶世の美女といわれた平安時代の歌人、小野小町の生誕地という伝承が残っています。もちろん、「あきたこまち」という名前もこれにちなんでつけられました。



花の色は
うつりにけりな
いたづらに
わが身よにふる
ながめせしに

田沢湖のたつこ像

田沢湖のほとりには、永久の美しさと若さを願い、泉の水を飲み干して龍となり、田沢湖の主となったたつこ姫のブロンズ像があります。



最大深度423.4mは日本一。
世界でも17番目に深い湖です。



帰省したときの
楽しみは、祖母の炊き込みご飯と、母のグラタンやパスタです。



3歳上の姉の玲奈は今年3月に本学を卒業して、埼玉県内で言語聴覚士として働いています。妹の私から見ても努力家です。



新潟県にある人の住む島、佐渡島と、あとひとつは?



保健医療学部
放射線・情報科学科2年
高橋裕人さん
(新潟県立
新潟商業高校出身)

ポッポ焼き

新潟県民のソルフードで、夜店の屋台には必ずあります。小麦粉に黒砂糖を入れて焼いたもの。「蒸気パン」とも呼ばれていますが、蒸しパンではなく、鉄板に油を敷き、焼いて作ります。近ごろは、ポッポ焼きをいつも扱っている店があちこちに出現しています。



日本一の米どころ

「コシヒカリ」で有名な新潟県は米の生産量日本一。でも、ひと口に「新潟米」といっても、「新潟産」、「岩船産」、「魚沼産」、「佐渡産」に分かれています。中でも品質の高さに定評があるのが、豪雪地帯の「魚沼産コシヒカリ」です。



スキー伝来の地

オーストリアの軍人・レルヒが旧高田市でスキー技術を伝えたのが、日本でのスキーの始まりといわれています。

笹川流れ



県北部の村上市にある海岸線です。国の名勝天然記念物に指定されていて、その長さは11km。小さな海水浴場や磯釣りのポイントがたくさんあります。日本海は「荒波」のイメージがありますが、この澄み切った碧い海と白砂のコントラストには思わず見とれてしまいます。

沖合20kmに浮かぶのは粟島。地元では佐渡島とあわせて誰もが知っています。知らなかった人はぜひ地図で確認してください。



父も診療放射線技師ですが、勉強のことはほとんど教えてくれません。帰省すると、母が必ず唐揚げを作ってくれます。